

市民フォーラム 21 第 4 回防災・安全部会 次第

日時；平成 22 年 11 月 25 日（木）午後 3 時～

場所；市役所第二庁舎 10 階 会議室 17

1 開 会

2 部会長あいさつ

3 市民フォーラム 21 第 3 回 防災・安全部会 ワークショップまとめについて
テーマ：政策 3 - 1 災害に強いまちづくりの推進 資料 1

4 ワークショップ
テーマ；より安心して暮らせる安全社会の形成

5 その他

6 閉 会

< 資料 >

資料 1；市民フォーラム 21 第 3 回 防災・安全部会 ワークショップまとめ
別添資料；市民フォーラム 21 第 3 回 防災・安全部会 会議概要

【次回の予定】

日 時：平成 22 年 12 月 28 日（火）9:30～11:30 会 場：市役所第二庁舎 10 階 会議室 18

内 容：ワークショップのまとめ及び計画大綱（案）の検討

持ち物：第四次長野市総合計画、前期基本計画の現況と課題、これまでに配布した資料

市民フォーラム21 第3回防災 安全部会 ワークショップまとめ (案)

日時	平成22年11月12日 (金) 午後 1時	会場	長野市役所 第2委員会室
政策	災害に強いまちづくりの推進		
3-1			

分類の記号

W :ワークショップで検討された意見

K :欠席者又は審議会委員 (他作業部会所属)の意見

行	大項目 項目	分類
	自助 / 自主防衛の重要性	
	公助としての防災計画のみで、自助を促すものが無い	W
	自分でできることは、自分でするという意識が薄い。	W
	夜間の被害把握が困難。また、支援も困難である。	W
	自警団の仕事	W
	長野市安心の日をつくる。	W
	月一回の防災パスポート確認や持ち出し袋の入れ替え点検。	W
	個人・家庭用の防災手引き(マニュアル) 防災パスポートを作って、半年ずつ見直す。	W
	防災意識の向上 ~ 隣近所の助け合い~	
	災害のないまちにしたい。	W
	このところ、大きな地震・水害等が起きていないと感じる。	W
	減災対策への取組みが必要。	W
	住民で災害・火災に理解がない人が多い。	W
	防災意識が低く、他人事になっている。	W
	住民のイザという災害時の意識が足りないのではないかと。	W
	災害に強い町とは、ハード面・ソフト面どちらか。ソフト面(人間関係)が重要。	W
	限界集落等の助け合い	W
	みんなで助け合う気持ちを持つことが大切である。	W
	近所との繋がりが不足している。	W
	側溝の維持など、地域が協力して清掃を行うことが必要	W
	組織が機能しているか。していないとすると阻害要因を把握し、改善策を考える。	W
	自主防災の活動について、隣組の対応が必要では。	W
	地域の人たちが顔を合わせて活動する機会を増やし、いやす。	W
	地域ごとに防災体制が整備されている。	W
	自主防災組織ができている。組織率が高い。	W
	孤立した集落の対応はどうしていくのか。	W
	山間地が高齢化となり、近所全員が高齢者となった場所もある。	W
	自治会内での自主防災役員、消防団員を含め、訓練や話し合いが必要。	W
	自主防災組織の訓練を各地区で実施し、災害に備えてはいかかがか。	W
	小さい単位での、防災訓練を実施することができないか。	W
	防災訓練がされている区と、されていない区がある。	W
	自主防災の紙上訓練を実施したらいかかが。	W
	地域防災計画が理解されておらず、災害時にどう行動したらよいか分からない。	W
	災害時のための住民の初期消火等の訓練が必要です。	W
	地震の時、消火活動はきちんとできるか、心配している。	W

要 約 (案)	作業部会意見・まとめ (案)
自分でできることは、自分でするという意識	自助に対する意識改革と啓発
様々な手段で自助に対する意識付け	
安心なまちにしたい	災害に強いまちづくり推進 (ハード・ソフト両面)
災害に対する知識や理解の不足 防災に対する意識が低い 地域での助け合い (互助の気持ち)の大切さ	災害や火災に対する知識や意識の向上 住民の災害時における助け合い意識の向上
地域の協力による維持活動 機能する組織体制への見直し	
地域における防災体制の整備	
地域の防災体制の不安	地域における防災体制 (組織や計画)の整備
地域での防災訓練等が必要	地域における実践的な防災訓練等の実施
地域計画の周知が必要 初期消火活動が必要	初期消火活動の整備

行	大項目		分類	要約(案)	作業部会意見まとめ(案)
	項目				
	自宅周辺は、避難場所が整いつつある。	W	}	}	}
	安全で安心な避難場所としての公園・広場が少ない。	W			
	夜間や、降雨時には歩いていくには、避難場所が遠いと思う。	W			
	災害要因による、避難所・避難場所の安全性の確保。	W			
	勤務中・営業中に避難する時に、迷いそう。	W			
	防災備蓄の充実	W			
	ハザードマップの活用				
	ハザードマップの利用が必要です。	W	}	}	}
	住民による防災マップづくりを進めてはいかがか。	W			
	最近、防災マップ等整備がきちんとされてきた。	W			
	ハザードマップが活用されていない。	W			
	ハザードマップに時間や規模、場所の記載も。	W			
	情報の共有 / 情報伝達				
	災害は規模や場所で異なるため、整理することから始める。	W	}	}	}
	不安な人がコンタクトを取れるネットワークを普段から機能させたい。	W			
	市民の被災経験(水害・火災等)を共有する(ハードにもソフトにもいかに)。	W			
	災害情報の個人取得に限界・困難がある。	W			
	水位・雨量観測体制の不足	W			
	同報無線の全区長への配備は、情報の共有化から良いことである。	W			
	災害時における情報伝達の実施されるか不安である。	W			
	市民に災害情報を早く正確に伝える方法	W			
	災害時の情報伝達が正しく早く伝わるのか。	W			
	防災情報システム、屋外スピーカーからの情報が聞こえる。	W			
	有線放送の活用	W			
	ある程度・値以上で、作動・機能する広報装置を設置する。	W	}	}	}
	地震速報(ラジオから聞こえた)が、あったらいいと思う。	W			
	相互情報提供システム。	W			
	ソフト事業の充実	W			
	防災情報システムが不安。	W			
	要援護者の支援				
	災害時要援護者の把握が地区全体としてできていない。	W	}	}	}
	要援護者情報がない。	W			
	独居高齢者の援護体制はどうなっているのか(プライバシーとの関わり)	W			
	山間地が高齢化となり、近所全員が高齢者となった場所もある。	W			
	高齢者の大災害時の対応者だれか。	W			
	要援護者の支援について	W	}	}	}
	災害弱者の緊急救助体制は整いつつある。	W			
	災害時に災害弱者(障害者・高齢者など)の対応はできるのか。	W			
	災害時における情報伝達の実施されるか不安である。	W			
	地域との連携によって、災害弱者への対策は進んできている。	W			
	独居世帯(高齢者)への安全対策がもっと必要ではないか。	W	}	}	}
	災害弱者の訪問指導を消防団と職員が協力して実施する必要があると思う。	W			
	被災者の生活ケア、心のケアはどうなっているか。	W			

行	大項目		分類	要 約 (案)	作業部会意見・まとめ (案)
	項目				
	多様化する災害要因 / 異常気象				
	集中豪雨(ゲリラ)における市街地の被害等まだ、未知である。	W	}	多様化する災害への不安 ゲリラ豪雨等の集中豪雨による浸水被害 市域拡大による災害への不安	多様化する災害へ対応 広域化した市域での災害への対応
	治山における保水性に問題があるのでは。	W			
	ゲリラ豪雨や都市化により、浸水被害が多く発生している。	W			
	最近、防災力を超える災害(ゲリラ豪雨等)の対応に苦慮している。	W			
	ゲリラ豪雨に対する対策が必要ではないか。	W			
	異常気象による集中豪雨が心配になる。	W			
	異常気象による災害が、不安である。(対応できるか)	W			
	市域が拡大。危険な箇所が増加した。	W			
	災害時のライフライン(水道・下水道・ガス・電気)が不安。	W			
	災害時のライフラインで、水道は井戸水利用も考えたかどうか。	W			
	ハート整備 / 耐震(ハート面)				
	道路などのインフラ整備が進み、迅速な災害活動が可能となってきている。	W	}	インフラ整備の進捗 森林整備の促進 治山・治水の推進 耐震化の周知 耐震化の実施	災害に対応できる都市基盤の整備 森林整備の推進 治山・治水の推進 耐震化対策の推進
	森林整備が必要である。	W			
	治山・治水を推進する必要がある。	W			
	耐震診断は無料であるのに、受ける人が少ない。	W			
	耐震診断から補強工事へ移行する人が少ない。	W			
	耐震化を進めるには、施工費が安く出来る工夫をアピールする必要がある。	W			
	災害に強い住宅建築について	W			
	構造的な違反建築物が多い。	W			
	消防団				
	市役所、消防団との連携が必要	W	}	連携の必要性 消防団の組織の強化(団員等) 消防団の活動の強化	消防団の組織や活動の強化 消防団活動への理解拡大と活動支援
	消防団員のなり手がすくない。(住民意識、高齢化)	W			
	消防団員の義務化はできないか。	W			
	消防団員の居住地以外の担当制にできないか。	W			
	消防団活動における訓練のみの団員を募集するのはいかが	W			
	消防団活動の迅速化、使命感。	W			
	消防団員の安全に対する策	W			
	組織機能の強化と連携				
	市の消防組織は、防災との連携は良好。	W			
	防災体制				
	市街地では5分以内に消防車が到着できるように署所の配備に努めている。	W	}	消防署の配置 消防・救急の体制 広域的な応援体制 消火用水の確保 火災報知機の設置 救急車の随時導入 医療機関との連携	消防体制の整備 防火意識の高揚 救急・救命体制の推進
	消防救急体制が整っている。	W			
	緊急消防広域援助隊、全国4000隊が登録して応援体制が整ってきている。	W			
	大規模災害に備えた消火用水の確保(河川課と連携)	W			
	住宅用火災報知機の設置が向上しており、火災に至らないケースが多い。	W			
	高規格救急車が随時導入し、救命率の向上に努めている。	W			
	長野市は医療機関が多く、また、受け入れ体制も充実している。	W			
	病院の受け入れ体制の充実	W			
	市民全員が、応急手当の講習を受けてほしい。	W			